

2017年9月19日（火）18:30～20:00 ホテルメトロポリタン長野

出口治明氏（ライフネット生命保険株式会社・創業者）の講演「日本の未来を考えよう—数字で考えるありのままの日本」

のメモ（文責：柳沢克央）

○学者の 95%が、消費税の軽減税率導入は愚の骨頂」と言っている。これは世界共通。税はシンプルに集め、シンプルに分配するのがよい。

○日本は借金で国家財政を回している。負担は少なく、給付は多い。国際的に「日本はちょっとマズイぞ」という目で見られている。

○出費が増えれば貧しくなる。日本の将来を二択とすれば「みんなで貧しくなる」か「生産性を上げて GDP を上げる」かのどちらかを選ぶことになる。

○国際競争力と労働生産性はだいたい一緒である。「失われた 20 年」の間、日本の国際構想力は低迷している。これはチャンスだ。量・質とも今の日本で働くのはメチャ・ラッキー。改善の余地が山ほどあるということはシメタである。

○2030年には800万～1000万人の労働力が不足すると予測されている。

○日本はこれから製造業中心の社会からアイデア豊かな発想やサービス業を中心とした社会に移行する必要がある。ただし、今ある製造業のうち、必要なものは残さなければならない。

○8時から20時までパソコンの前に座って真面目に働くが、ベストセラーの出せない社員 A さん。10時から18時までしか会社におらず、いろんな人に会って年1～2冊のベストセラーが編集できる社員 B さんのどちらを評価するか。

○借金は民主主義のルールに反する。このままやったら、子や孫が享けるべき給付の三割くらい、先に我々の世代が使っている。ドイツは財政黒字。

○日本の大学進学率は50%。ずいぶん多いように思えるが、OECDの平均は60%。

○小峰隆夫著『日本経済論講義』（日経BP社・2017年）は良い本。普通の市民が経済を見

ていくときには、GDP と景況指数でほぼ OK である。シンプルに見るのが良い。大事な数字は多くない。

○良い本の条件。①古典、②新聞の書評欄で紹介されている本。大学の先生はもっとも「お前はアホだ」と言われたくないと思っている人たちだから、本気で書評を書く。③本文の最初の 10 ページを読んで面白いこと。「まえがき」「あとがき」は本文を仕上げ「やれやれ、よかったな～」と思いながら書くものだから、本文の最初の 10 ページを読んだ方がよい。

○健康寿命をのばす以外の方法で介護を減らすことはできない。

○「1960 年頃は若者 10 人以上で高齢者 1 人の面倒を見ていたが、今は 2～3 人で面倒を見るようになってきているから大変だ」という議論がある。だが、「若者が高齢者の面倒を見る」という前提がおかしい。これは、高度成長という特殊な条件の下でのみ成立したこと。社会常識を疑わないと、良い社会を実現できない。

○出生率を上げる政策、フランスの「シラク三原則」。①子どもを持っても新たな経済的負担が生じない。②無料の保育所を完備。③育児休暇から女性が職場復帰する際、ずっと勤務していたものとみなして企業は受け入れる。—この三原則と、婚外子を差別しない PACS (民事連帯契約) をワンセットの政策パッケージとして導入。1994 年に 1.66% まで下がった出生率は、10 年あまりで 2% にまで上昇した。

○フランス人が私に言う。このシラク三原則を実現するのに今の日本ほどやりやすい国は他にない。少子化で教室が余っている小中学校に託児所を設置すればよい。文部科学省と厚生労働省の縄張り争いをやめさせるのはとても簡単。首相が「つべこべ言うとお前たちの省を統合するぞ」と言えば官僚は動く。

○ヨーロッパの社会保障の方針は “All support All.” である。定年制を廃止せよ。働くことに年齢は関係ないという考えでいけば、同一労働同一賃金へと社会はシフトする。少子高齢化に対応するために、消費税とマイナンバーをセットで導入し、新しいパラダイムへと転換することが求められている。

○人間は見たいものしか見ない。あるいは、見たいように現実を変換してしまいう性質を持っている。みんなが社会を色眼鏡で見ている。たとえば夫婦別姓も特殊なイデオロギーを持った人が強硬に反対しているという傾向がある。

○「この社会をどのようなものとして理解し、どこを変えたいと思い、自分はその中でどの部分を担うのか」ということを一生かけて考えていくことが大切である。

○女性が輝く社会がよい。ヨーロッパはクォーター制で女性を採用するシステムが広がっている。女性が働かないと社会がうまく回って行かないということが分かっているから。

○製造業の「メシ・フロ・ネル」の価値観から、「人・本・旅」から新しい発想が生まれるという価値観へシフトするとよい。

○日本は単一民族国家ではない。現在では中国や韓国の実態の方が単一民族国家に近い。日本は数万年前から①朝鮮半島から、②沖縄の南方面から、③北海道の北方面から、人の流入があり、とてもよく血が混ざっている。

○空き家を本当に減らしたければ、新築に高い税を掛ければよい。

○農業で儲けている国、①米国、②じつはオランダ。

○ヨーロッパの選挙教育。あなたができることは①投票する。②白票とする。③棄権する。—このうちのどれか一つ。メディアが報道する事前予想の通りになるのが嫌なら選挙に行つて予想と違う名前を書けばよい。チャーチルは100年前、「私も含めて選挙で出馬するのはろくでなしだけだ」と言っている。消去法で選ぶしかない。「民主主義は最低の仕組み。ただし、これまでのどのシステムよりもマシである」。「現状が嫌なら投票に行け」。

○小坂井敏晶著『社会心理学講義』はこの2～3年のベストの本と思う。社会心理学についての本ではない。「人間とは何か」について書かれている。著者小坂井氏はフランスの大学の先生。

○面接試験で人物評価をすることに妥当性はあるか？

—（間髪入れず即答）ない。

○ならば、採用試験はどのような方法で行うのがよいか？

—ライフネット生命はベンチャー企業だから、人材採用も他社とは異なる方法で行うことが大事だと考えた。ライフネット生命では、論文一本で採否を決める。テーマは熟考を要するものとする。グローバル企業の主流は大学での成績を重視している。

◆メモを清書してみてもヒトコト……著者は三重県出身。今年古稀(70歳)。物静かな語り口の中にユニークな発想と独特の説得力があった。参加者と一緒に晩酌をしたがっていたので、とても行きたかったのだが、直接話ができず残念。板倉さん、牧さんにも共通する知的でオープン・マインドな雰囲気・豊富で自由闊達な話題が素晴らしいと思った。10人以上の聴衆がいれば講演してくれるということなので、そのような場が設けられればいいなあと思った。柳沢克央(信州・上田仮説サークル)2017年9月23日(土)上田仮説サークル9月例会で発表・紹介。